



始



大正十一年度業務報告

岐阜縣工業試驗場







- 五、力織應用試驗.....二
- 久米稿試織.....二
- 繪絹試織.....二
- 市松緋試織.....三
- 六、絹紬ニ關スル試驗研究.....三
- 輸出絹紬試織.....三
- 染色 課.....三
- 一、緋用經糸及緯糸ノ捺染試驗.....三
- 二、媒染々料ノ一浴染法試驗.....三
- 三、柞蠶糸黑紺染試驗.....三
- 四、染料ノ堅牢度比較試驗.....三
- 五、別珍ノ黑染試驗.....三
- 六、別珍ノ黑染試驗ノ二.....三
- 七、別珍ノ黑染試驗ノ三.....三
- 八、染色一般講習ノ成績.....三
- 九、繪緋製造機ノ試驗成績.....三
- 圖案 課.....三
- 一、試作圖案.....三
- 二、夏物流行豫想圖案.....三
- 三、依頼圖案ノ調製.....三

- 第二章 試驗事項ノ概要.....三

- 機織 課.....三
- 一、本場發意ニヨル試驗.....三
- 二、依頼試驗.....三

- 染色 課.....三
- 一、本場發意ニヨル試驗.....三
- 二、依頼試驗.....三

- 第三章 質疑應答實地指導事項.....三

- 機織 課.....三
- 染色 課.....三

- 圖案 課.....三

- 第四章 講習講話.....三

- 第五章 雜件.....三



# 大正十一年度業務報告

## 緒言

大正十一年度ニ於ケル縣下一般織物ノ狀況ハ概シテ絹織物毛織物ハ不況ニ經過シ絹織物並絹綿交織類ハ豫想外ノ盛況ヲ呈シタリ其ノ原因ハ前者ハ輸出ニ於テ輸出ノ貿易ノ減退ト内地向ニ於テ大正九年財界恐慌以來漸次消費者側ノ資力ノ涸渇ト消費節約ノ宣傳トニヨリ自覺ヲ促カシ之カ爲メ一般需要ノ減退ニ基因スルモノナルベク後者ハ其ノ反動ノ結果ナルベシト認ム

商況叙上ノ如クナルヲ以テ本場ハ之カ對策トシテ先ツ以テ生産費ノ節減能率増進ニ專ラ意ヲ注キ試驗研究ノ結果輸出絹紬ノ如キ從來高價ナル絹織機ヲ使用セシヨ廉價ナル綿織機ヲ使用シテ容易ニ製織スルコトヲ得而シミナラス能率ニ於テ二割乃至三割ノ増加ヲ見ルニ至ラシメ又紡琉及美代緋造織ニ就テハ從來殆ント手工的業ナリシモノヲ改良シテ拵括リノ如キ機械的操業ニ移ラシメ著シク能率ヲ増進シ生産費ノ節約ヲ見ルニ至ラシメタリ更ニ又本場ハ大正十一年農商務省ノ廣幅織物獎勵ニ基キ先ツ以テ美濃稿同業組合ニ對シ獎勵スルヲ適當ナリト認メ同年十二月十六日ヨリ同年同月廿日ニ至ル羽島郡生産品評會ハ廣幅織物獎勵ノ參考品廿一点出品ヲナシ外ニ廣幅織物獎勵宣傳書二千枚配付ヲナシ其ノ外本縣特産タル平絹紬ニ種々技巧ヲ凝シタルモノ廿点出品ヲナシ廣幅織物ノ獎勵ニ努メタリ

繭ツテ消費者側ノ意嚮ヲ見ルニ概シテ廉價品ヲ要望セルモ其ノ意匠柄合等ニ就テハ願ル優秀ナルモノ一般ニ歡迎セラレ而シテ又近時流行ノ變遷極マリナク之カ爲メ織物製造業者ハ鮮ナカラサル苦心考慮ヲ拂ヒツ、アリ就中本縣竹ヶ鼻地方ノ特産タル紡琉ノ如キ尙又笠松地方ノ特産タル久米縞ノ如キ何レモ日用必需品トシテ年々需要増加シツ、アルモノ意匠ノ良否柄合優劣等ハ直チニ製品ノ價格ニ多大ノ



關係アルヲ以テ本場ハ特ニ意ヲ注ギ圖安課ヲシテ指導獎勵セシ結果大ヒニ見ルベキモノアルニ至リタリ之ニ反シ染色堅牢度ニ於テハ意匠柄合等餘リニ美術化シ殆ント没交渉トナリ日用必需品トモ謂フベキ其ノ特質ヲ失ヒ京阪地方ニ於テ非難ノ聲高ク之ヲ此儘ニ放任セムカ折角需要次第ニ増加シ販路擴張サレツ、アル本縣特産物ヲシテ忽チ悲境ニ沈倫セシムルニ至ルベキハ火ヲ賭ルヨリモ明カナルヲ以テ有染物ニ對スル改良ノ急務ヲ一般ニ宣傳スルト共ニ毎月二、三回染色主任ヲ同業組合ニ派遣シ梁色ノ堅牢度検査並使用染料ノ選擇等ニ就イテ實地指導ヲヲナシタリシカ充分ノ効果ヲ舉クルコト能ハザリシハ甚タ遺憾トスル所ナリ徹底の効果ヲ舉ントセハ宜シク生産検査制度ヲ設ケ官憲ノ力ニヨリ検査勵行ノ外他ニ良策ナカルベシ

經濟狀態ノ進步變遷ニ伴ヒ經濟單位著シク擴張サレツ、アリ從ツテ生産業ニ從事スルモノハ往時ノ如キ姑息ナル取引ヲ容サズ常ニ世界經濟界ノ變動ニ注意シ需要供給ノ狀態ヲ考慮シ而シテ能ク生産過剩ノ弊ヲ防止シ確實ナル需要ニ向ツテ突進スルノ覺悟ナカルベカラス之カ爲メ本場ハ農商務省貿易通報課ヨリ世界市場商況ノ通報ヲ享ケ之ヲ印刷ニ附シ關係同業組合ニ配付シ當業者ニ周知セシメ或ハ各同業組合ヨリ毎月生産高ノ報告ヲ徵シ之ヲ取纏メ半期毎ニ製表シテ當業者ニ配付シ當業者ヲシテ成ルベク經濟界ノ變動ニ順應セシムベク大ヒニ努力セリ

本場ノ設備ハ從來殆ント縮緬業者指導機關トモ謂フベキ單純ナル設備ナリシカ斯クテハ試驗場トシテ殊ニ本縣ノ如キ他種多樣ナル織物ノ生産地トシテ更ニ又現在ノ如キ工業講習所ノ併置シアル以上ハ生徒教育上ヨリモ亦一般的設備即チ木綿、麻、毛等試驗研究設備ノ必要ナルハ論ヲ俟タサル所ナルヲ以テ逐年該方針ニヨリ設備ノ充實ヲ計リツ、アリシカ大正十一年度ニ於テハ追加豫算金貳千五百拾圓ヲ以テ毛織物試驗用力織機二臺布帛浸染試驗用ジツガー壹臺繪緞製造試驗機用繪緞製造壹臺購入スルコトヲ得タルハ洵ニ本場光榮トスル所ニシテ益々奮勵努力以テ本場ノ聲價ヲ發揚セムコトヲ期ス

# 第一章 重ナル試驗成績

## 機織課

### 一、原料ニ關スル試驗

#### 苧麻布試驗

目的 毛羽多キ爲メ製織困難ナル苧麻糸ヲ用ヒテ優秀ナル實用的洋服地ヲ得ムトス

#### 方法

經糸	苧麻糸單糸左四十番	雪印日華紡績株式會社製
緯糸	同上	
筵幅	一尺九寸	
筵密度	一寸間五十羽	
引込數	一羽二本入	
經糸數	千九百十本	
整經長	七丈二尺	
經糸使用量	五百六十匁	
打込數	一寸間七十一本	
緯糸使用量	二百八十匁	
織上長	六丈三尺	
仕上長	六丈二尺	



織上幅 一尺八寸七分 仕上幅一尺八寸四分  
 織上量目 九百四十五匁 仕上量目九百匁

織機 豊田式力織機

結果 糊付製織法ニ就キ種々研究ノ結果容易ニ製織スルコトヲ得且ツ製品ハ豫期以上ノ成績ナリシヲ以テ美濃絹同業組合員ニ對シ之レヲ指導セムトス

ラミー洋服地試織

目的 ラミー屑糸ヲ細キテ製造セル極メテ粗惡ナル原料ヲ用ヒテ趣味ニ富メル高等洋服地ヲ得ムトス

方法

經糸 柞蠶糸同盟印八粒 六本合セ  
 緯糸 ラミーカラ結二十六號 濃陽紡績會社製  
 筵幅 一尺九寸五分  
 筵密度 一寸間五十羽  
 引込數 一羽二本入  
 經糸數 千九百五十本  
 整經長 百三十二尺  
 經糸使用量 六百二十匁  
 打込數 七十八本  
 緯糸使用量 六百四十匁  
 織上長 十二丈 仕上長十一丈五尺

織上幅 一尺九寸五分 仕上幅一尺九寸一分  
 織上量目 一貫二百六十匁 仕上量目一貫五百十八匁

織機 豊田式力織機

結果 強伸度頗ル乏シク且ツ太サ甚タ不均一ナル爲メ其ノ儘ニテハ到底使用ニ堪ヘサルカ故ニ淡キ蒔菫糊ヲ施シテ製織セシニ其ノ結果容易ニ製織スルコトヲ得タリ而シテ仕上後ノ製品ハ此糸ノ最大欠点タル太サノ著シキ不均一ハ反ツテ布面ニ一種ノ面白味ヲ加ヘ趣味ニ富メル洋服地トナレリ依ツテ之ヲ絹紬同業組合員ニ指導セムトス

玉蟲レーンコート地試織

目的 極メテ廉價ナルラミー紬糸ヲ用ヒ其ノ耐水性ヲ利用シ實用的婦人用レーンコート地ヲ得ムトス

方法

經糸 綿糸二十番單糸  
 緯糸 ラミー紬糸 十七號  
 筵幅 一尺九寸五分  
 筵密度 鯨一寸間五十羽  
 引込數 一羽三本入  
 經糸數 二千九百二十五本  
 整經長 百三十四尺  
 經糸使用量 一貫百七十六匁 糊付後一貫二百九十三匁  
 打込數 鯨一寸間七十二本  
 緯糸使用量 八百八十二匁



織上長 百二十尺

織上幅 一尺九寸

織上量目 二貫百八十五匁

織機 豐田式N型

價額 金拾八圓五拾錢(五十碼)

結果 満足ナル結果ヲ得タルヲ以テ美濃稿同業組合員ノ指導ニ資セリ

目的 經ニ柞蠶糸緯ニ目下格安ナル絲紡糸ヲ用ヒ高價ナル純絹製帶地ノ代用品ヲ得ムトス

方法

經糸 柞蠶糸金鯛印二本合燃糸一米突三百

緯糸 絹紡五十號單糸二本合

筵密一 一尺五分

筵密二 鯨一寸間九十五羽

引込數 一羽二本入

經糸數 二千六十二本(耳共)

整經長 二百二十二尺

經糸使用量 四百匁

打込數 鯨一寸間百二本

經糸使用量 四百一匁

織上長 二百四尺 仕上後二百尺

織上幅 九寸七分 仕上後九寸五分

織上量目 八百一匁 仕上後六百九十三匁

織機 絹布用 山本式

價額 帶一本代(一丈)金五圓四拾錢

結果 製織後過酸化會達漂白ヲ行ヒ友禪捺染ヲ施セリ

原料費加工費共ニ安く上リ仕上品ハ絹紬帶地ニ劣ラス一見純絹製ノ如ク思ハシメ代用品トシテ適

當ナルモノト認メタリ本品ハ羽島郡生産品評會場ニ陳列シテ一般當業者ノ參考ニ資セリ

二、糊料及ヒ糊付試驗

絹紬經糊試驗

縮紬經糊試驗

目的 安價ニシテ使用上便利ナルおぐら布海苔ノ最良ナル使用法ヲ研究セムトス

方法 最初おぐら糊特有ノ性質ヲ化學的物理的兩方面ヨリ詳細ニ研究シ然ル後其ノ應用法ヲ講セムト

セリ

結果 目下試驗研究中ニ屬シ近々完成ノ見込ニツキ完結ヲ俟ツテ更ニ詳細報告ヲナス

三、内地向新織物試驗

ラミー座布團地試織

目的 ラミー屑糸ヲ紬キテ製造セル極メテ粗惡ナル原料ヲ用ヒ高尙ニシテ趣味多キ夏座布團地ヲ作ラ

ムト欲ス

方法



經 糸 綿糸四十二番双糸  
 緯 糸 ラミー紬糸  
 筵 幅 二尺四寸五分  
 筵 密度 一寸間五十羽  
 引 込 數 一羽二本入  
 經 糸 數 二千四百四十本  
 整 經 長 七十二尺  
 經 糸 使用量 百三十匁  
 打 込 數 一寸間五十本  
 緯 糸 使用量 三百匁  
 織 上 長 六十五尺  
 織 上 幅 二尺四寸  
 織 上 量 目 四百三十匁  
 織 機 手織機

備考 緯糸ハ西洋草花ヲ圖案化セルモノヲ中央ニ織出スヘク緋染トセリ  
 結果 ユメラルド色ノ中央ニ白クボンヤリト現レタル模様ノ工合涼味溢ル、ノ感アリ夏物トシテ適當ナルモノト思考ス依ツテ竹ヶ鼻機業同業組合員ニ之レヲ指導セリ

目的 横緋ハ非常ナル手數ヲ要シ而カモ力織機ニテ製織スルコト能ハサレハ生産費ヲ高メ遂ニ時代ニ適應セサル織物トシテ需要次第ニ減スルニ至ルヘシサレハ本場ニ於テハ機織術ト色染術トノ關係ヲ

緋式捺染座布團地試織

方 法

深ク研究シ最モ進歩セル方法ニヨリ力織機ヲ應用シ捺染ニヨリ恰カモ織緋ノ如キ趣味ヲ有シ廉價ナル緋ノ代用品ヲ得ムトスルニアリ

經 糸 綿糸六十番手双糸  
 緯 糸 同上  
 筵 幅 一尺九寸五分  
 筵 密度 鯨 寸間五十羽  
 引 込 數 一羽二本入  
 經 糸 數 千九百五十本  
 整 經 長 百三十二尺  
 經 糸 使用量 五百匁  
 打 込 數 鯨一寸間百十一本  
 緯 糸 使用量 五百四十八本  
 織 上 長 百二十二尺 仕上 百二十尺  
 織 上 幅 一尺八寸八分 仕上 一尺八寸五分  
 織 上 量 目 一貫六十匁 仕上 一貫百二十匁  
 織 機 豐田式N型  
 價 格 一枚分金七拾八錢參厘  
 備 考 一、緯糸ハ不規則的ニ處々水酸化マンガンを固着セシメ置ク



二、製織後ハ塩化アンリソヲ含メル糊ニテ模様ヲ印花シ充分酸化セシメタル後水洗シテ酸性亞

硫酸曹達ノ溶液ニ浸シ不必要ナル部分ヲ脱色セシメテ仕上ヲナス

結果 數回試験ヲ重ネタル結果畧ホ完成ノ域ニ達シ染色極メテ堅牢ナリ故ニ夏座蒲團地トシテ最モ適

當ナルモノト認メタリ 本品ハ竹ケ鼻機業同業組合員ノ指導ニ資セリ

四、輸出向織物製造指導

絹 紬 洋服 地 試 織

目的 ドビー機ヲ應用シ稍復雜ナル組織ヲ以テ輸出絹紬ヲ試織シ絹紬同業組合員ニ範ヲ示シ漸次高等

織物ノ製織ヲ獎勵セムトス

方 法

經 糸 柞蠶糸無印八粒 六本合

緯 糸 同 上

筵 幅 二尺一寸五分

筵 密度 一寸間五十羽

引 込 數 一羽二本入

經 糸 數 二千〇五十本

整 經 長 百六十二尺

經 糸 使用量 九百匁

打 込 數 百八本

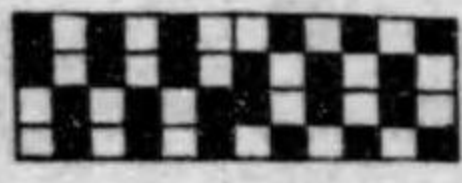
緯 糸 使用量 九百十五匁

織 上 長 百五十尺

織 上 幅 一尺九寸 仕上幅一尺八寸八分

織 上 量 目 一貫八百十五匁 仕上一貫六百十一匁

組 織 機 豊田式力織



結果 組織ノ關係上夏洋服地トシテ見ルヘキモノヲ得タリ依ツテ見本ヲ作成シ機會ヲ見テ輸出絹紬協

會員ニ配付指導セムトス

柞蠶ジャージ、クレープ試織

目的 柞蠶糸ト絹糸紡績ノ各性質ニ從ヒ適當ニ配列シ輸出向服地トシテ需要多キジャージクレープヲ

製造シ絹紬同業組合員及縮緬同業組合員ヲ指導セムトス

方 法

經 糸 平織ノ部 絹糸紡績英五十五號單糸一米突間二千回ノ燃ヲ施ス

緯 糸 綾織ノ部 柞蠶糸双象印八粒三本合セ

筵 幅 絹糸紡績英五十五號單糸一米突間二千回ノ燃ヲ施ス 但左右二越宛

筵 密度 二 尺

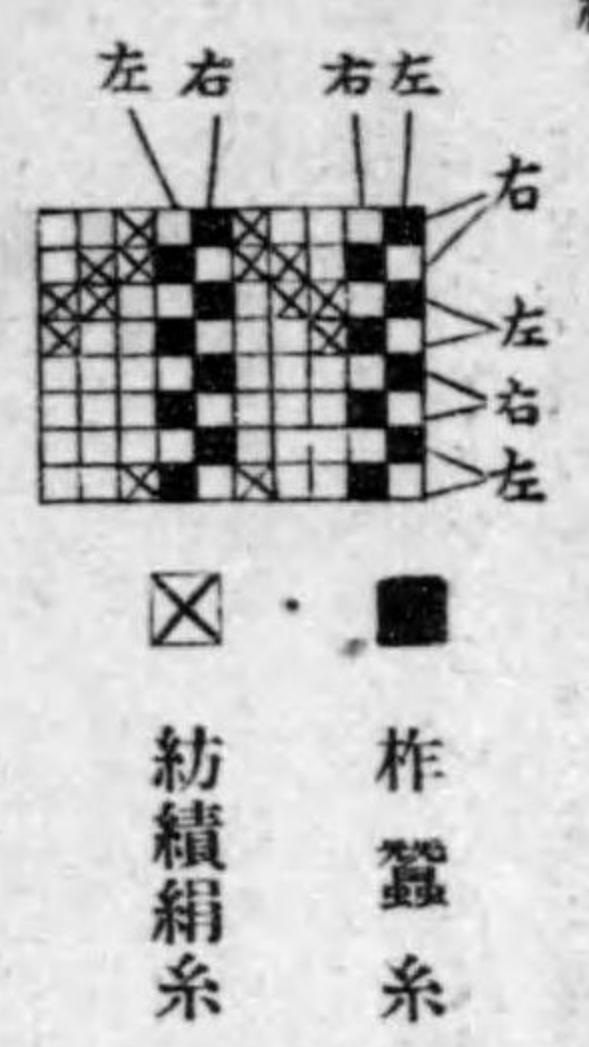
引 込 數 一寸間六十五羽

經 糸 數 一羽二本通シ 柞蠶糸一羽三本通シ

經 糸 數 二千七十六本



整經長 六丈  
 經系使用量 二百匁  
 打込數 一寸間百十四本  
 緯系使用量 四百五十六匁  
 織上長 五十五尺 仕上四十七尺  
 織上幅 一尺九寸一分 仕上一尺四寸  
 織上量目 六百五十六匁 仕上五百匁  
 織機 ルーチ力織機  
 組織



結果 彈力ニ富ミ着心地好キ莫大小ノ如キ地合ヲ得タリ而モ莫大小ニ比シ型ノ崩レサル特徴アリ  
 目的 前回ニ引續キドビー機ヲ使用シ輸出向高等織物製造ノ範ヲ示サン爲メ試織セリ  
 方法 柞蠶糸ニ本合、生糸三十五デニール二本合

緯糸 柞蠶糸柞蠶糸四本合一米突千八百撚ヲ施シ生糸廿五デニール一本ト合セ九百撚展ス  
 筵幅 一尺九寸七分  
 筵密度 鯨一寸間六十羽  
 引込數 平ノ部分 一羽二本 朱子ノ部分 一羽四本  
 經系數 柞蠶糸 千五百三十六本 生糸 千八十本  
 整經長 百三十尺  
 經系使用量 二百九十八匁  
 打込數 鯨一寸間八十一羽  
 緯系使用量 四百七十二匁  
 織上長 百二十二尺 仕上二十尺  
 織上幅 一尺九寸五分 仕上一尺八寸五分  
 織上量目 七百七十匁 仕上六百五十五匁  
 織機 ルーチ機  
 價格 金六拾五圓五拾錢(五十碼)  
 結果 緯糸ニ壁糸ヲ使用シタル爲メワイシャツ地トシテ肌觸リノ工合申分ナク縞ニ絹糸ヲ應用シタル爲メ高尚優美ナル外觀ヲ呈セリ

五、力織機應用試驗  
 久米 縞 試 織  
 目的 美濃縞同業組合ノ特産物タル久米縞ハ太サ極メテ不均一ナル水車紡糸ヲ用フルカ故ニ手織機ニアラサレハ織上後布面ニ厚薄ノ差ヲ損シ著シク品位ヲ生セリ依ツテ之カ改良ヲ試ミトス



方法

經系 綿糸シルケット六十番双糸  
 緯系 水車紡百五十號  
 筵幅 一尺〇三分  
 筵密度 一寸間七十羽  
 引込數 一羽一本通シ  
 經系數 七百二十本  
 整經長 百五十六尺  
 經系使用量 百七十五匁  
 緯系使用量 四百二十五匁  
 織上長 百四十五尺  
 織上幅 九寸七分  
 織上量目 六百匁  
 織機 木本式力織機ノ捲取裝置ヲ改造シ消極的トセリ  
 組織 平

結果 手織機ト何等異ナル所ナク極メテ良ク出來上レリ

目的 本縣特産物タル繪絹ハ從來全部手織機ニヨリ製織シ機械力ヲ應用スルモノナシ依ツテ之ニ力織機ヲ應用シテ完全ナル製品ヲ得ムトスルニアリ

方法

經系 生糸二十デニール四本引揃  
 緯系 生糸十七デニール六本引揃  
 筵幅 一尺一寸  
 筵密度 一寸間八十五羽  
 引込數 一羽二本入  
 經系數 千七百八十六本外ニ耳四十本  
 整經長 七十二尺  
 經系使用量 百四十匁  
 打込數 一寸間百十本  
 緯系使用量 八十匁  
 織上長 六十尺  
 織上幅 一尺五分  
 織上量目 二百二十匁  
 織機 山本式力織機  
 組織 平

糊付法 水五〇〇匁ニ付米粉二十匁ヲ混合シ其ノ半分ヲ煮沸シ冷却シタル後全部合シテ其ノ中ニ經系ヲ認ノ儘浸シ平等ニ絞リテ乾燥ス

結果 能率増進織段ノ生セサルハ手織機ニ優レリト雖其ノ他ニ於テハ認ムヘキ点ナシ尙數回ノ試驗ヲ行ヒ豫期ノ成績ニ達セムトス

市松 緋 試織



目的 先ニ經糸ニ紬糸ヲ用ヒ琉球絣ノ代用品ヲ案出シ力織機應用ノ途ヲ弘メ當業者ニ指導シタル結果  
 今ヤ其ノ應用製品到ル處ニ產出シ殊ニ他縣ニ於テモ之ヲ模倣スルモノアルニ至リタリ故ニ本場ニ  
 於テハ更ニ研究ノ步ヲ進メ目下手織機ニテ製織セル市松絣ノ類似品ヲ力織機ニテ製織シ指導セム  
 トス

方法

經糸 紬糸十七號  
 緯糸 綿糸六十番手諸  
 筵幅 一尺六分  
 筵密度 鯨一寸間五十羽  
 引込數 一羽一本入  
 經糸數 五百三十二本  
 整經長 百六十二尺  
 經糸使用量 三百四十匁  
 打込數 鯨一寸間六十四本  
 緯糸使用量 百九十二匁  
 織上幅 一尺  
 織上量目 五百三十二匁  
 織機 木本式  
 價格 金參圓五拾錢(壹反)

結果 大体ニ於テ目的ニ通ヘル面白味アル製品ヲ得タリ依ツテ美濃稿、竹ヶ鼻兩同業組合員ノ指導ニ

資セムトス

七、絹紬ニ關スル試驗研究

輸出絹紬試驗

目的 輸出絹紬ハ原料高製品安ノ奇現象ヲ呈シ多クノ當業者ハ採算上甚タ苦痛ヲ感セリ其ノ原因ハ作  
 蠶糸ハ絹糸ニ比シ粗雜ナル纖維ナルニモ抱ハルス羽二重ノ如キ高等織物ト殆ント同様ナル方法ニ  
 ヲリ製造セルヲ以テ生産費ヲ不當ニ高カラシムルニ基因ス本場ニ於テハ先ニ重日絹紬ヲ製織スル  
 ニ當リ綿用力織機ヲ應用シ能率ノ増進ヲ圖リタルガ今回ハ更ニ需要廣大ナルトニ付平絹紬ノ製織  
 ニ豊田式綿織機ヲ應用シ能率ノ増進ヲ試ミ生産費ヲ著シク減少シ當業者ノ利益ヲ計ラムトスルニ  
 アリ

方法

經糸 柞蠶糸寶山印二本合  
 緯糸 同  
 筵幅 二尺四寸三分  
 筵密度 鯨一寸間五十五羽  
 引込數 一羽二本入  
 經糸數 千三百三十六本  
 整經長 十二丈八尺  
 經糸使用量 二百七十六匁  
 打込數 鯨一寸間百本  
 緯糸使用量 三百二十四匁



織上長 十二丈 仕上十二丈  
 織上幅 二尺三寸 仕上二尺二寸  
 織上量目 六百匁 仕上五百二十五匁  
 織機 豊田式N型  
 價格 百匁ニ付金九圓

備考

- 一、管ハ普通綿布用ノモノヨリ幾分短クシテ滑ラカニ磨キ上ケテ使用セリ絹布用ニ比シテ一個ニ數倍ノ糸量モ捲キ得ルノ得点ヲ有ス
  - 二、管捲機ハ綿布用ノモノヲ一部改造シテ使用セシモ未タ不完全ナル點多シ
  - 三、織機ノ回轉數ハ一分間百七十回トセリ
  - 四、經糸ノ糊付方法等ハ普通絹織ノ場合ト同様ナリ
- 結果 第一回ニ於テ試織セルモノハ地風、織味等ハ絹布織機ニテ作レルモノニ比シ毫モ遜色ナキカ經緯共ニ引ケテ多ク現出セリ第二回ニ於テハ整經並ニ管捲ニ注意ヲ拂ヒ尙殘竹ヲ除去リタルニ結果良好ニシテ是等ノ缺點ヲ殆ンド一掃シ輸出絹織物検査所ニ於テ合格品ト認メラレタリ此ノ方法ニヨリテ輸出絹織ノ製織ヲナス時ハ從來ニ比シ三、四割ノ能率ヲ高メ得テ利スル所甚タ大ナリ但管捲方法ニ於テハ尙改善スベキ餘地多ク更ニ研究ヲ重ネツ、アリ

染色課

一、併用經系及緯系ノ捺染試驗  
 目的 經系ヲ整經シテ之ヲ絞リ紺紺ノ地ヲ染ムルトキ重ニ硫化染料及直接染料ヲ以テナシツ、アリ此

方法ハ地ノ色カ紙ノ上ヨリ浸透シテ白地ヲ汚シ殊ニ大柄モノニ於テ其ノ欠点多シ又琉球紺ノ染色ニ於テ多數ノ色合ヲ出サムトスル際先ツ白地ヲ絞リ次ニ最モ簡單ナル色合ヲ染メ水洗乾燥シ更ニ絞リテ色合ニヨリ次ノ色合ヲ染色シ同様色合ニヨリテ殘リノ色合ヲ出スカ又ハ模様トナル部分ヲ全部絞リテ地ヲ染色シ然ル後必要ノ色ヲ摺込ミニヨリテ多クハ鹽基性染料ニテ目的ノ色合ヲ出シツ、アリ故ニ經系ニモ緯系ニモ種々ノ欠点即チ多クノ工費ヲ要シ染色不堅牢ナル等改良スベキ点多々アルヲ以テ是等經系及緯系ノ染色ニ對スル欠点ヲ除去セムカ爲メ之ニ捺染ヲ施シ簡單ナル裝置ニヨリテ改良ヲ行ハムトス

裝置

長サ十八尺巾 尺七寸ニテ椽付キノ平板ヲ造リ之ヲ臺上ニ載セ椽ニハ引キ張レル經系又ハ緯系ヲ壓ヘ又捺染ロールノ心棒ノ案内トナル鐵板ヲ固定スルコトヲ織物ノ巾ノ長九寸八分毎ニ一組ヲ取付ク又壓ヘトナル鐵板ノ巾ハ捺染ロールノ半經ヨリ少シク大キクシ捺染ロールハ其ノ半經ハ一定ナレトモ巾ノ廣狹ナルモノ幾ツカヲ作り模様ニヨリテ此ロールハ一枚以上幾枚ニテモ合セ得ル様ニス且ツ其ノ捺染ロールハ紺ノ模様ニヨリテ心棒ノ何處ニテモ取付ケ位置ハ狹ミノカラー及ネヲ付ノカラーニテ固定スル様ニス

供試品

經系ノ整經セル綿糸緯系ハ整經機ニテ一模様ノ長サニ引揃ヘタル袖糸

方法

前述ノ如クシテ作レル平板ノ上ニ布(又ハフェルト)ヲ敷キ其ノ上ニ經系又ハ緯系ヲ揃ヘテ並ヘ

結果

シ取外シテ蒸熱釜ニテ蒸シ水洗シ若クハ其ノ儘織機ニ移シ又ハ管ニ卷キテ製織ス  
 平板ノ餘リニ短ニ過グルトロールノ糊ヲ含ム溝小ナル故ニ糸ヲ送ルトキ模様ノ崩レル欠点トロ  
 ールヲ度々使用セサルベカラサル欠点アレトモ之ニテ紺ヲ作り得若シ板ニシテ長クロールノ刻ミ  
 深ケレハ絞リテ染色スルヨリモ餘程時間ト工費トヲ節約シ得而シテ又堅牢ナル染色ヲ得ラルベシ



本試験ハ尙引續キ之ヲ行ハムトス

二、媒染々料ノ一浴染法試験

媒染々料ヲ浸染法ニヨリテ綿及絹ニ染色スルニハ先ツ媒染劑ヲ媒染セ固着セシメ然ル後染色シテ色素ヲ纖維上ニ沈澱セシムルモノニテ其ノ間多クノ時間ト努力トニ要ス然ルニ捺染ニ於テハ媒染々料媒染劑等糊ト共ニ混合シ醋酸ノ如キ兩者ノ結合ヲ妨クル如キモノヲ入レ捺染乾燥シ蒸熱シテ纖維上ニ色素ヲ沈澱セシムルモノニテ比較的簡單ナリ

浸染法ニ於テモ媒染劑染料其ノ他ヲ一所ニシテ染色シ得ル方法アラハ時間ト工費トヲ節約シ得ルカ故ニ目下該試験研究中ナリ

供試品 木綿糸及絹紡糸

方法

ゼラチンノ如キ膠狀質ハ溶液中ニテ臙狀質ノ保護作用ヲナスモノナリ其ノ内一般ニハゼラチンハ最モ作用ノ烈シキモノトセラルカ故ニ之ヲ用ヒテ(媒染劑又ハ染料ハ一種ノ臙狀質ト假想ス)媒染劑ヲ保護シツ、又染料トノ結合ヲ妨ケツ、何レカ一方ヲ先ツ纖維ニ追込ミ加熱ニヨリ兩者カ纖維ノ上ニ沈澱ヲ生セサルヤ否ヤヲ見ンカ爲メニ次ノ試験ヲ行フ

ロード油

一五cc

アンモニヤ液

三cc

A 染料

三%

塩化クローム

(二百五十七度トワドル)

一〇cc

水

三〇〇cc

(B)ハAノ外ニゼラチン三%ヲ加フ(C)ハ同様一〇%(D)ハ同様二〇%ヲ此ノ中ニ各精練セル絹綿ヲ投シ漸次加熱シ八十度ニ至ラシメ更ニ其ノ温度ニテ五十分間操作ス

結果 (方法一ニ對スル)

何レモ不良ニシテゼラチンノ濃キ程濃度淡ク水洗ニヨリテ殆ント脱落ス

方法 二

A 水

一ツ染物ノ三十倍 (三〇〇cc)

A 醋酸クローム

(二十五度トワドル) 一〇cc

染料

三%

(B)ハ此ノ外ニアミラジン五%ハゼラチンヲ加ヘ是等ノ中ニ可染物ハ投入シ浴浴ヨリ染メ始メ然ル後温度ヲ八十度乃至九十五度ニテ五十分間煮沸ス

(注意)塩化クローム、醋酸クローム、鐵、アルミナノ媒染劑ヲ用ヒテ比較セルニ醋酸クローム最モ良好ナルニヨリ之ニテ試験ス

結果 (方法二ニ對スル)

方法一ニテゼラチンノ添加ハ不良ナリシ故ニ他ノモノトノ比較如何ヲ見ムトシテ本試験ヲ行ヘリ此ノ内(B)ハ最モ濃ク染マリ(A)之ニ亞キ(C)ハ最モ淡シ之ニヨリテ見レハゼラチンハ臙狀質ヲ抱キ込ムコト或ハ可能ナラムモ吸着作用ニ欠クル点アルベシ然ルニアミラジンハ酵素ニシテ又一種ノ膠狀質ナリト見ルヲ得之ハ臙狀質ニ對シテ保護作用ヲナスト同時ニ吸着作用モ得ルモノ、如ク即チ單ニ水、媒染劑染料ヲ用ヒタルモノヨリモアマミラチンヲ添加セル方ハ遙カニ良結果ヲ得タリ

方法 三 アミラチンノ適量

可染物ノ三十倍

A 醋酸クローム

可染物ノ五〇%

染料

三%



(ア)ミラヂン 三%  
 (B)アミラヂン五% (C)ハアミラヂン一〇% (D)ハアミラヂン二〇%

結果 (方法三ニ對スル)  
 殆ント差異ナキモBハ最モ濃シ尙急激ニ加熱スルハ宜シカラス  
 八十度以上ニシテ加熱スルニハ少クトモ一時間位放置スルヲ可トス此試験ニテアミラヂン五%ヲ  
 用ヒシカ最モ良好ナル成績ヲ得タリ故ニ次ニハアミラヂン五%ヲ用ヒテ醋酸クロームノ多少ヲ見  
 ムトス

方法 四醋酸クロームノ適量

藥品染料等ハ方法三ト同分量アミラヂンハ五%但シ(A)ハ醋酸クローム二五%(B)五〇%(C)八一〇〇  
 %トス

即チ是等ノ液中ニ可染物ヲ投シ冷浴ヨリ染メ始メ漸次加熱シ五十度乃至六十度攝氏ニテ約五十分  
 間操作セル後更ニ加温シ八十度乃至百度ニテ二十分間處理シテ水洗ス

結果 (方法四ニ對スル)

(C)ハ最モ濃ク(A)ハ最モ淡シ(B)ハ其ノ濃度最初媒染固着後染色セルモノヨリ反ツテ濃シ但シアリザ  
 リンブルト赤味ヲ帶フ絹ハ木綿ヨリ能ク染色スルコトヲ得タリ是等ヲ水洗乾燥後蒸シタルニ色  
 相遙カニ冴ヘ來レリ是等ヲソービンクシタルニ液ノ色ハ青ク變リ來タレトモ糸其ノモノ、脱色ハ  
 殆ンド變化ナシ酸ニ對シテハ堅牢日光試験ニ對シテモ亦同様ニシテ最初ヨリ媒染劑ノ固着セルモ  
 ノニ比シ稍劣レルノ感アリ又最後ニ蒸シタルモノハ其ノ堅牢度モ強クナレリ

方法五、他ノ酵素ト適否  
 タカチアスターゼプロテアーゼ及アミラヂンニテ其ノ比較試験ヲ行フ方法ハ方法第四ノ通

結果 (方法五ニ對スル)

タカチアスターゼハ不良プロテアーゼハ相當ノ成績ヲ得タルモアミラヂンニ及バス但シプロテア  
 ーゼハ少シク變質セル疑アリ

方法 六

方法四ニヨリテ相當成績ヲ擧クルコトヲ得タルモ尙幾分不堅牢ナルト染班ノ附キ易キ欠点ノ爲メ  
 ニ次ノ如キ試験ヲ行ヘリ

- 可染物ノ 三十倍
- 醋酸クローム 可染物ノ 一〇〇%
- 染料 三%
- アミラヂン 五%
- ロード油 少量

方法四ノ如クシテ染色セル後絞リテ之ヲ稀薄ナル媒染液中ヲ通シテ次第ニ硅曹ニテ固着シ然ル後  
 ソービンクヲ行ヒ之ヲ乾シテ後蒸ス

結果 (方法六ニ對スル)

班ノ着ク欠点殆ント除カレ而カモ堅守度モ増進シ絹糸ニ對シテハ施行シ得ル見込充分ナリ  
 セルリン、アリザリンブル、ログウードニ對シテナセル試験ハ相當ニ宜シログウードハ木綿糸  
 ニテ相當濃ク染色スルコトヲ得タリ  
 本試験ハ更ニ幾分引キ續キ試験シ媒染々料中此ノ外ノ染料ニ對シテ結果ヲ見ムトス

三、柞蠶糸黒紺染試驗

目的 前期來絹紬ノ黒染試驗ヲ施行シ相當濃キ黒色ヲ得ルニ至リタリシカ織レル絹紬ヲ染色スルヨリ



モ寧ロ糸ニテ染色スレハ現今縞絹袖トシテ又アルバカ代用洋服地等未タ完全ナル染色ヲ成シタルモノナキヲ以テ反ツテ需要ヲ擴張シ得ラルヘキヲ思ヒ此目的ニ適スル染色糸ヲ得ルカ爲メ本試験ヲ成シタリ

供試品

柞蠶糸ハ非常ニ毛羽立チ易クシテ繰返シ非常ニ困難ナリ故ニ四―六本合セニテ少シク加燃セルモノヲ使用ス

方法

- 1、糸ヲ先ツ曹達灰七―八%ニテ精練水洗ス
  - 2、絹袖漂白ノ場合ノ如ク漂白シテ水洗ス
  - 3、硝酸鐵液(三十度)中ニテ一夜間浸漬シ絞リテ少量ノ消石灰ヲ加ヘタル水ニテ水洗ス
  - 4、重曹溶液中ニテ溫度六十度ニテ十五分間固着シ水洗ス
  - 5、ロツグウツド十五%セルリン適量(黒及紺ノ度合ニヨリテ加減ス)ヲ用ヒ冷浴ニテ先ツセルリンヲ充分吸收セシメシ後加熱七八十度ニテ四十分間操作ス
  - 6、石鹼及炭酸曹達溶液ニソ―ヒンダ行ヒ引上ケ水洗ス
  - 7、糸ノ繰返シ易カラシムル爲メ極少量ノ布海苔及オリ―ブヲ以テ作レルモノニテ糊付シ幾分緊張シテ乾ス
- 結果 斯クセルモノハアルバカ代用及洋服地トシテ用ヒルニ足ルヘキ濃厚ナル色合ヲ出シ得ルト雖モ少シク加燃糊付シアルカ故ニ打込ム際打込ミ難キ欠点アレド比較的上光リスルコトナクアルバカ地代用等トシテハ差支ヘナカルヘシ之ヲコツブダイインダマレンヲ以テセハ加燃合糸セズシテ染色スルコトヲ得幾多ノ困難ヲ省キ又利用ノ途モ多カルベシ

四、染料堅牢度比較試験

目的 竹ヶ鼻地方ニ於テ多ク生産スル紡琉緋ハ近年意匠甚タ進歩セルト價格ノ低廉ナルトニヨリ次第ニ大間屋筋ヨリ大ヒニ歡迎セラル、ニ至リタリト雖トモ染色甚タ不堅牢ニシテ兎角其ノ聲價ヲ落シツ、アリ故ニ本場ハ現在使用シツ、アル染料ノ鮮麗ナル色合ト同等又ハ僅カニ低下スト雖モ現在ヨリ堅牢度ノ強キモノヲ撰定シ當業者ニ使用セシムト思ヒ又當業者中ノ有志ヨリナル約五十名ノ會員ヲ有スル染織研究會ノ依頼セル染料中ヨリ堅牢ナルモノヲ撰定シ之ヲ當業者ニ配付スル目的ヲ以テ次ノ如キ方法ニヨリ試験セリ

供試品

紬糸十七號ノ精練セルモノ及染料ハ次ニ示スガ如キモノ

方法 染色法ハ普通ノ如ク又堅牢度試験法モ例年ノ通り

結果

試験成績表

染料名	日光試験				洗濯試験		熱湯試験		酸試験	
	上	中	下	落	液色	染色	液色	染色	液色	染色
フアーストバイオレット 混合色	三ノ上	三ノ上	三ノ上	三ノ上	四	四	三	三	一	一
ダイアザリンマゼンタ	三ノ上	三ノ上	三ノ上	三ノ上	三	三	一又二	三	一	二
タイアザリンフアーストバイオレットR	三ノ上	三ノ上	三ノ上	三ノ上	四	二又三	四	二	一	一
アシットバイオレット	三ノ上	三ノ上	三ノ上	三ノ上	五	三	三	二	一	一
ダイアザリンブルー	三ノ上	三ノ上	三ノ上	三ノ上	二	三	三	二	一	一



ダイアザリンブルー10B	四	四	三	一	一	一	二
ダイアザリンブラウン	三ノ上	四	三	一	二	一	二
ダイアザリングレীগ	三ノ上	二	三	一	一	一	一
メチールバイオレット	五	五	四	二	三	二	二
ビクトリアブルー	五	四	三	二	一	一	二
マラカイトグリーン	五	四	三	二	一	三	二
アセトファーストエローO	三ノ下	三	四	二	三	一	二
アセトファーストスカレット3B	四	三	三	二	一	一	一
アセトファーストスカレットHS	三	三	三	二	一	一	一
アセトファーストバイオレット6R	四	四	五	二	一	一	一
アセトスフーストバイオレット5B	五	三	三	二	一	一	一
アセトファーストブルー5B	五	一	五	二	二	一	一
アセトファーストブルーSDAコンク	五	四	四	三	二	一	一
アセトミノリングブルーFF	五	三	三	二	一	二	一

ダイアザリンバイオレット6B	四	三	三	二	二	一	一
ダイアザリンエローO	二	四	三	一	一	一	一
クリスタルバイオレット	四	四	四	二	二	四	三
ダイアザリンブルーR	三ノ上	四	三	三	一	一	一
ダイアザリングリーンN	三ノ下	四	三	三	一	二	一
ダイアザリンファーストスカレットG	三ノ上	三	二	一	一	一	一
ダイアザリンホルドーB	二	四	四	三	二	一	一又二
ダイアザリンバテントブルーA	三ノ下	三	四	三	三	二	一
ダイアザリンファーストバイオレットR	三ノ上	三	一	三	三	一	二
ローダミンB	四	三	三	三	二	三	二
セリスレット	四	三	四	二	一	四	三
オーラミンOコンク	二	三	三	三	二	三	三
ビスマークブロン	五	三	三	三	二	三	二
ダイアザリンマゼンタ アセットバイオレット	二	四	三	三	一又二	一	二



アセトミールングブルーBR	四	四	三	二	二	一	一
アセトミールングブルー3R	四	三	三	二	二	一	四
アセトファーストグリーンG	四	四	三	一	一	一	一
アセトミールンググリーンB	四	三	四	二	二	一	二
アセトファーストグリーンDB	四	四	三	一	一	一	一
アセトファーストグリーンR	三ノ下	四	二又三	一	一	一	一
アセトファーストブラウンB	三ノ下	三	三	一	一	一	二
アセトファーストグレーB	四	四	三	二	一	一	一
アセトミールングブラックB	四	四	三	一	一	一	二
アセトファーストブラックG	四	四	三	二	一	一	二
アセトファーストグリーンDG	四	二	五	二	一	一	一

前記成績表ノ如ク從來竹ヶ鼻地方ニテ使用シツ、アル染料ハ一般ニ日光ニ對シテ不堅牢ニシテ陳列棚ニ飾リ付ケ中變色スルモノ、如クアセト染料ハ又一般ニ日光ニ對シテ不堅牢ナリ只ダイアザリン染料ハ日光ニ對シ相當強ク熱其ノ他ニ對シテハ紡琉緋ハ冬物ナレハ煮沸染色シテ充分水洗セバ相當宜シキ理ナリ故ニ日光ニ最モ強キダイアザリン染料ノ使用ヲ當業者ニ進メタルニ價格幾分

五、別珍黒染試験

高價ナルノ故ヲ以テ之ヲ使用シツ、アルモノ極一部ノ人ニ過キサレハ遺憾トスル所ナリ

目的 別珍ハ近時漸ク各地ニ製造工場起リ盛ニ製織セラレ需要増加シ用途又種々ノ方面ニ使用セラレ從來ノ如ク直接染料又ハ硫化染料ニテ染色シ塩基性染料ニテ上掛ケシタルノミニテハ堅牢度ニ不足ヲ感スルニ至リタリ特ニ黒染ノ如キ其ノ尤ナルモノ、一ツナリ本縣ノ如キモ一、二工場ニテ別珍ヲ多量ニ製織シツ、アリ黒染ノ堅牢ナルモノヲ必要トスルカ故ニ本場ハ該染色試験ヲ施行シタル結果ニ付其ノ一ニテ列記ス

供試品 別珍

方法 先ツ別珍ヲ硫化染料黒ニテ普通ノ如ク染色シ次ニアニリンノ上掛ヲ次ノ如ク行ヒタリ

(A片)重クロム酸加里六%ヲ取り湯ニテ溶カシ之ヲ冷槽ニ入レ更ニ木醋酸鐵液四%濃硫酸四%ヲ加ヘ次ニ別器ニアニリン油四%ト硫酸四%トヲ加ヘ更ニ之ヲ前ノ冷槽ニ加ヘ此ノ中ニ硫化染料ニテ染メタル別珍ヲ入レ三十分放置シタル後溫度ヲ攝氏九十度ニ昇ケ二十分間操作シ引上ゲ水洗シソービングヲ行ヒ乾燥ス

(B片)重クロム酸加里八%硫酸五、四%木醋酸鐵五、四%鹽酸五、四%アニリン油五、四%(C片)重クロム酸加里一〇%硫酸七%木醋酸鐵七%硫酸七%アニリン油七%

BC共操作ハAト同様

結果 CBAノ順序ニ濃厚ナルモ何レモ紺味ヲ幽分帯ヒ且ツ生地ハ淡ク見ヘ且ツ鮮麗味ニ乏シ

六、別珍黒染試験ノ二  
目的  
供試品



前と同様

方法 別珍ヲ次ノ如キ藥品ヲ用ヒ處理セリ

重クロム酸加里三〇%木醋酸鐵液二〇%硫酸二〇%鹽酸二〇%アニリン油二〇%

先ツ重クロム酸加里木醋酸鐵液硫酸ノ半量ヲ冷槽ニ入レ次ニ鹽酸トアニリン油ヲ一所ニシテ全

部加ヘ之ニ別珍ヲ入レ十分間ニシテ重クロム酸加里木醋酸鐵液硫酸ノ殘リヲ入レ二十分間ノ後

加熱シテ十分間處理シ一度水洗シテソーピングヲ行フ

結果 甚タ濃厚ニシテ手觸リモ宜シク生地ノ損傷スルコトモ少ナケレトモ染色ノ度毎ニ色相幾分異ナ

リ且ツ染色後時間ヲ經過シ色合ノ變色スルト摩擦ニ弱キ欠点アリ

七、別珍黒染試驗ノ三

目的

供試品

前記ノモノニ等シ

方法

水 一五〇〇cc

硫化アニリン 二十六cc

鹽酸曹達 十二cc

アニリン油 二〇cc

硫化銅 四cc

右ノ分量ニテ作リタル染色ノ中ニ別珍ヲ浸漬シ充分滲込マシメタル後之ヲ絞リ竈内ニテ酸化サ

セ綠色トナレル時直ニ之ヲ重クロム酸加里(水一〇〇〇ccニ付重クロム酸加里4瓦)溫液中

ニテ三十分間操作シ水洗シ石鹼液(一〇〇〇ccノ水ニ八瓦ノ石鹼)ノ熱湯ニテ暫時ソーピングヲ行ヒ水洗ス

結果 鹽酸曹達ノ代リニ鹽酸加里ヲ用フルト生地ヲ害スレトモ此方法ニヨレハ割合ニ損傷ナシ濃度モ

目的ノ濃サニ達シ手觸リ宜シ餘リニ酸化後長ク放置セバ生地ヲ損スルカ故ニ注意ヲ要ス

八、染色一般講習會ノ成績

竹ヶ鼻染織研究會ニ於テ前半期ヨリ一般染色法其ノ他ニ就キ講習ヲ行ヒ來リタルカ今期ニ於テモ

九月迄ハ尙月二回乃至四回ノ割ニテ出張講習ヲナシタリ最初五十余名ノ會員アリシカ其ノ内出席

スルモノハ二十名乃至三十名位ノ程度ニ減シタルモ是等會員ハ甚タ熱心ニシテ一般染色ノ講習ヲ

受ケツ、アル一方竹ヶ鼻紡梳染色甚タ不堅牢ニシテ批難ノ聲高キヲ以テ之カ改良ニ付大ヒニ焦

慮シツ、アリ本場ニ於テモ亦其必要ヲ認メ紡梳ニ用フル糸ノ染色ニハ出來得ル限リヂエーナ

染料ダイアザリン染料クロム染料等ノ如キ堅牢ナルモノヲ使用シ且ツ又最モ簡易ニ染色スル方

法ニ就キ相互ニ研究セリ而シテ從來ノ染料ヲ使用スル場合ハ必ス加熱染色シ摺込ミハ之ヲ蒸熱シ

又染色後ノ水洗ヲ充分ニスル事ノ如何ニ有効ナルカラ實驗ニヨリテ知ラシメタルニ研究會員ノ大

多數ハ加熱染色ヲ行ヒ水洗シ且ツ蒸箱ヲ製作セシモノモ二三アリテ互ニ供用シツ、アリ但シ染

料ハヂエーナ染料トダイアザリン染料ヲ使用スルモノハ未タ少數ナリ然レトモ是等研究會員ハ

竹ヶ鼻機業同業組合員中有力ナル機業家比較的多カリシ關係ニテ染色改善ノ急務ヲ痛切ニ感シタ

ルト同時ニ當業者ハ之ヲ何等カノ方法ニテ實現セムト努力シ且ツ組合全部ヲ動サムト努力シツ、

アルヲ以テ本場ハ凡ユル時期ニ於テ適當ト認ムル方面ニ付時々指導シツ、アリ

九、繪紉製造機ノ試驗成績

好況時代ノ生産費ノ過大ヲ意ニ介セサルノ時代ハ既ニ過タリ國民一般ニ消費節約ヲ生活ノ信條ト



スル時代ニハ成ル丈ク生産費ノ低下ヲ計リ製品ヲ低廉ニテ市場ニ供給スル必要アリ之レカ爲メニハ手工的ノモノヲ機械的ニ替ヘサルベカラス竹ケ鼻紡琉緋ハ本縣及愛知縣特有ノ緋ニテ其ノ生産モ相當多キモ何レモ手工的ノ所多ク絞ノ如キ然リ本場ハ此ノ絞リ機ニ就キ種々調査ノ結果廣島縣ヨリ繪緋製造機ヲ購入當業者ニ其ノ使用方法ヲ示サムトセリ

幸ヒ機械ノ考案者機械ト同時ニ當地ニ來リタレハ本場ハ考案者ヲ竹ケ鼻ニ伴ヒ同地ノ織物ノ實際ヲ見學セシメ而シテ後竹ケ鼻組合ノ有力者ヲ本場へ案内シ紡琉緋ノ經緯糸ノ如何ニ圓滑ニ且ツ平易ニ絞リ得ルモノナルカヲ考案者自カラ機械ヲ運轉セシメ之ヲ當業者ノ實見ニ供シタリ

該機ハ一日十時間ノ勤務ニテ普通四十反分ヲ絞リ上クルコトヲ得尙又熟練職工ニテ十二時間約八十反ヲ絞ルコトヲ得手絞リノ約四倍乃至八倍ノ能率アリ且ツ染上リ甚タ美シキヲ特長トス將來本機ニヨリ竹ケ鼻機業同業組合ノ製品ニ一大改良ヲ加ヘ大ヒニ生産額ヲ増加シ得ルニ至ルベキモノト信ス

圖案課

一、試作圖案

本場ニ於テ一般流行ノ傾向ニ準據シ絶ヘス試作圖案ヲ創作シ當業者ノ參考資料ニ供セムトシ調整シタル件數左ノ如シ

種別	件數
總計	四八件
久米縞	二〇
美代縞	一三
琉球縞	一〇

雜件

二、夏物流行豫想圖案

時代ノ傾向 現今如何ニ社會ノ趨勢カ向ヒ何レノ方面ニ人氣カ傾注シ居ルカヲ考案スルニ無論實質的時代即チ節約宣傳ヲ大呼スル時代ニシテ爲メニ流行ノ轉移ヲ阻止スル節約的觀念カ一般需要者側ニ習慣性トナラムトシツ、アリ財界ハ依然トシテ當分此不況ハ持續スベク傳ヘラレ換言スレハ不景氣ノ時代ナリトス故ニ今日ノ狀態ヨリシテ既ニ需要者カ斯ル傾向ニ趣キ居ル以上新ラシキ研究的創作モ必要ナレトモ成ルベク質實ナル趣味ノ方面ニ沿ヒ經濟的諸点ヲモ見逃スコトナク所謂值頃品ナルコトヲ念頭ニ置キ製作スル樣努力スベキモノト信セラレ

流行色 先ツ大体ニ於テ世間目下總テニ於テ華麗ヲ避ク溫雅ニ且ツ淡白ナル方面ニ傾キ奇抜ヨリ次第ニ眞面目ニ移リ行ク傾向ナルカ故ニ絹綿一般ヲ通シテ其ノ基調色ト豫想セラレ、納戸系ノ色カ多ク用ヒラル、コトハ當然ノ結果ナルベツ夏物トシテハ從來ノ納戸ハ餘リ沈滯ノ氣分ニ包マレ居ルカ故ニ之ニ少シク藍色及綠氣味ノ納戸或ハ紺地、黒等カ主人役トナリ配彩色トシテ茶系統ノ變化セシ輕キモノ若クハ鼠系統ノ茶ヲ帶ヒタルモノヨリ紫系統ノ薄紫、ローズ色等流行ノ先驅タルベキ傾アリ

模様物ニ就テ 去秋ニウセセツシヨシヨシ模様ト稱シ大戰後ノ歐洲ニ新タニ試ミラレシ極メテ卓純ナル直線ト曲線ニテ出來タル新樣式カ應用セラレ動的模様ト原始的文様ノ活用主張サレ又一方近松翁二百年記念祭ノ記念ノ意味ヲ以テ復興的國粹樣樣復活シ市松樣ノ如キモ一時全盛ヲ極メ純日本趣味ノ復興的模様トナリ又近來新文化模様トシテ西洋趣味ヲ日本趣味ニ取入レ漸次流行ハ世界的トナリ今ヤ生活ノ改善住宅ノ改良等文化的生活ノ聲ハ實現ノ域ニ達シツ、アレハ從ツテ婦人訪問服ノ如キモ從テノ裾模様ニテハ到底時代ノ要求ニ不適合ナルヲ感知シ模様ノ中心次第ニ裾ヨリ上



方ニ移リツ、アルハ事實ニシテ在來地暈シヲ比較的少クシ之ニ明快ナル氣分ヲ表現シ復雜ナル色彩ノ集合ヲ避ケ簡單ナル配色ノ應用ニ歸着スルナラムト信セラレ

又色ト光ノ印象ヲ促ヘテ之ヲ單化シ正確ナル物ノ形体ヨリモ色彩其ノモノ、美サ味ヒ輝キ強サ柔味等即チ色ノ調子ヲ捉ヘテ其ノ妙味ヲ表現サレタルモノト今一ツハ新文化模様ノ一トシテ直線ト曲線カ極メテ單純ニ調和シタルモノニシテ即チ諸國土人ノ文様ヲ更ニ單一ニシテ素朴ナル氣分ヲ現ハシ又東洋模様殊ニ支那朝鮮印度等ノ古キ工藝品ニ應用セラレタル文様ヨリヒントヲ得テ簡單ニ醇化應用スル等來ルベキ流行ノ柄合ト豫想セラル

三、依頼圖案ノ調製

當業者各自ノ希望要項ニ本場ノ創意ヲ加ヘ適當ナル圖案ヲ調製シ交付シタルモノ左ノ如シ

種別

久米 編 九〇件

四七

美代 編 一七

琉球 編 一五

雜件 一

### 第二章 試驗事項ノ概要

#### 機 織 課

一、本場發意ニ依ル試驗事項

種 別	總 計	數 件
絣式捺染布試織	一	二二件
久米絣試織	一	一
平絹紬試織	三	一
洋服裏地試織	二	一
絹紡シャツ地試織	一	一
綿クレープ試織	一	一
綿服地試織	二	一
大和絣試織	一	一
經捺染座蒲團地試織	一	一
絹紡服地試織	一	一
紋縮緬試織	一	一



久米縞試織  
 クレープ試織  
 絹紡絹紬試織  
 矢絰試織  
 ラミー緯座蒲團地試織  
 紙糸緯絹紬試織

二、依頼試験  
 種別

ビツカー鑑定  
 繪絹仕上法  
 工場設計  
 力織機試験  
 絹紬試織  
 織物分解  
 織布鑑定  
 ラミー糸應用試験  
 魚網糸燃糸試験  
 苧麻布試験  
 絹紡糸強伸度試験

件數  
 七三件

---  
 七 一 一 三 一 九 二 二 四 三 一

モスリン仕上試験  
 糊料應用試験  
 綿布仕上試験  
 麻系糊付試験  
 毛糸乾燥試験  
 麻布仕上試験  
 特殊絹紬仕上試験  
 烏網糸硬化試験  
 不二絹仕上試験  
 中耳装置調査  
 シュランク仕上調査  
 フェルト調査  
 仕上機械調査  
 仕上賃調査  
 大和糸調査  
 芯地仕上調査  
 ラミー敷布試織  
 玉蟲レーンコート地試織  
 不二絹試織  
 柞蠶糸ノ鑑定

---  
 二 一 二 四 一 二 三 五 一 二 四 一 二



綿布鑑定  
絹絨糸鑑定  
絨糸鑑定  
捲取装置

染色課

一、本場發意ニ依ル試驗事項

種別  
總計

- 絹綑及柞蠶糸ノ黒紺染試驗
- 絹ニ應用セムトスルナフトール赤ノ試驗染
- 擬麻糸ニ對スル染色應用試驗
- 硫化染料ト助劑ノ試驗
- 硫化染料摺込試驗
- 媒染々々料一浴染試驗
- 絹絞リ用防水紙ノ製造試驗
- 媒染々々料摺込試驗
- 鹽基性染料堅牢度試驗
- 經糸及緯糸ノ捺染試驗
- 絨糸緯糸捺染試驗

件數  
一一八件

三三三二〇一二二四

二、依頼試驗

- ナフトール染料ノ一浴染法能不能ノ試驗
- アニリンヲ用フル綿糸ノ黒染試驗
- 風呂敷ニアニリン用フル引染試驗
- 媒染々々料ノ濃度比較試驗
- 別珍ノ黒染試驗
- 酸性染料鹽基性染料タイアザリン染料
- 堅牢度比較試驗
- 麻糸ノ赤染試驗
- 別珍ノ捺染試驗
- 絹綑ノ糊付試驗
- 媒染々々料ノクローム明礬媒染法試驗
- 八ッ橋緋色染色試驗
- 經糸捺染試驗
- 紡糸精練試驗
- クローム明礬媒染糸織込ミ織物ヘノ捺染試驗
- 美濃編組合ニ配付スベキ流行色々々合試驗
- シルクウール染色試驗
- 木綿糸及絨糸着尺拔色試驗
- 綿糸ノ硫酸ノ代リニ醋酸ヲ用フルカルキノ漂白試驗

四三

一一九二二二一一二一一四



種別  
總計

件數  
四九件

- 木綿糸色合依頼試験 一
- 平和博看守人上着地ノ染色堅牢度依頼試験 一
- 警察署職員用羅紗地(九種)染色堅牢度試験 一
- 放火犯ニ使用シタル綿ノ鑑定試験 五
- 絹紡糸ノアリザリンブルー及セルリンノ染色試験 一
- ビスマークブローン染色改良試験 一
- 木綿糸ノ黒ノ捺染試験 二
- 木綿糸ヘ顔料ノ捺染試験 三
- スタンブイソクノ沈澱原因調査依頼試験 一
- ダイアザリン染料堅牢度試験 一
- 縮緬ノ改良精練試験 一
- 別珍黒染試験 一
- 別珍緋染試験 一
- モスリン友禪仕上 一
- 麻布精練漂白試験 一
- 亞鉛未ノ良否檢定試験 一
- 木綿黒紋付ノ染斑原因調査 三
- 絹織ノ糊付ノ試験 一

- 色糊ノ色合試験 四
- 絹紬ノ色合修正試験 一
- 鑽石ノ鑑定試験 一
- 生糸ノ緋色々合試験 一
- 木綿ニ對スル緋色々合試験 一
- 硫化染料色合試験 一
- 疑麻糸ノ製造試験 一
- 美濃綿織ニ用フル條糸堅牢度比較試験 一
- 麻布ニ對スル捺染試験 一
- 紙糸引染ノ際ニジミ出ヌ糊ノ製造試験 一
- 紡縮緬精練漂白ノ際ニ起ル色合ノ修正試験 一
- 縮緬條糸ノ變色原因調査試験 一
- 黃色絹糸ノ精練試験 一
- 絹糸ノ鼠及黒染試験 一

### 第三章 質疑應答實地指導事項

機織課

種別  
總計

件數  
一七三件











特殊絹紬ニ就テ  
 シュランク仕上法  
 座蒲團地製造法  
 絹紬製織ニ綿織機應用法  
 絹紡バレスニ就テ  
 柞蠶八ッ橋製造法  
 然糸機械ニ就テ  
 管捲機械ニ就テ  
 經綉製造法ニ就テ  
 綿糸缺点ノ指示  
 菱織維ニ就テ

染色課

種別	件數
總計	一〇三件
硫化染料染法及其ノ上掛法ニ就テ	二
紬糸ノ茶及黒染法	一
ナフトール染料染法ニ就テ	三
生糸ノ媒染々料染色法	二
柞蠶糸ノ染色色合ニ就キ	四

縮緬乾燥室バイピングニ就キ  
 媒染々料及硫化染料ノ摺込ニ就キ  
 硫化染料ノ色合ニ就キ  
 ロツグウツドノ捺染法ニ就キ  
 絹糸紡績各機ト其ノ工程ニ就キ  
 シルケットニ用フル苛性曹達ノ一日採法ニ就キ  
 經糸捺染ニ就キ  
 引染法ニ就キ  
 絹紬ノ漂白ニ就キ  
 絹紬ノ仕上糊ニ就キ  
 毛糸染ニ就キ  
 染色糸ノ拔色法ニ就キ  
 木綿直接染料ニ就キ  
 硫化染料及直接染料捺染用糊ノ調合ニ就キ  
 縮緬精練ノ欠点ト之ニ對スル注意  
 綉絞用防水糊ノ製法及手拭染ニ就キ  
 瓦斯糸ノ黒及紺染ニ就キ  
 霞網ニ使用スル瓦斯糸ヲ硬クスル藥劑ニ就キ  
 黄色紋羽二重ノ精練及漂白ニ就キ  
 絹紬ノ黒染ニ就キ

縮緬乾燥室バイピングニ就キ	五
媒染々料及硫化染料ノ摺込ニ就キ	一
硫化染料ノ色合ニ就キ	二
ロツグウツドノ捺染法ニ就キ	二
絹糸紡績各機ト其ノ工程ニ就キ	一
シルケットニ用フル苛性曹達ノ一日採法ニ就キ	二
經糸捺染ニ就キ	二
引染法ニ就キ	一
絹紬ノ漂白ニ就キ	二
絹紬ノ仕上糊ニ就キ	一
毛糸染ニ就キ	三
染色糸ノ拔色法ニ就キ	三
木綿直接染料ニ就キ	一
硫化染料及直接染料捺染用糊ノ調合ニ就キ	一
縮緬精練ノ欠点ト之ニ對スル注意	一
綉絞用防水糊ノ製法及手拭染ニ就キ	一
瓦斯糸ノ黒及紺染ニ就キ	一
霞網ニ使用スル瓦斯糸ヲ硬クスル藥劑ニ就キ	一
黄色紋羽二重ノ精練及漂白ニ就キ	二
絹紬ノ黒染ニ就キ	一







夏物基調色ニ就テ  
 色ノ名稱ニ就テ  
 紺模様ノ配列方法ニ就テ  
 夏物豫想柄合ニ就テ  
 紺模様ノ形式ニ就テ  
 友禪模様ニ就テ  
 ホスター圖案ノ件ニ就テ  
 染織物店頭裝飾ニ就テ  
 冬物流行豫想ニ就テ  
 久米縞圖案柄合ニ就テ  
 繪具使用方法ニ就テ  
 座蒲團應用捺染圖案ニ就テ  
 意匠登錄出願ノ件ニ就テ  
 風呂敷圖案ニ就テ  
 美代紺  
 久米縞實地指導  
 琉球紺實地指導  
 雜件

二〇〇  
 一〇〇  
 一五五  
 四四五  
 三六三  
 二五七  
 一三二  
 二一五  
 六六九

第四章 講習講話

場 所	科 目	人 員	月 日	講 師
大垣商業會議所	各機業地ニ於ケル染色一般	八	同六月二十二日	技手 林 茂
竹ヶ鼻機業同業組合	染色一般 堅牢ナル染料ノ共同指定ト其ノ撰擇及實驗	五〇	同同十五九日	同 人
同	媒染劑製造	三〇	同八月八日	技手 加藤美輝
同	染色一般	三〇	同自七月二回至十二月三回	同 林 茂
右ノ以職員全部本縣工業講習所職務ヲ兼任シ生徒ノ教養ニ努メツ、アリ				
講 話				
竹ヶ鼻機業同業組合	桐生地力リ於ケル染色業一般及収縮法ノ勵行	五〇	同四月二十五日	技手 林 茂
岐阜劇場	縮緬工場能率増進法	五〇	同五月二十三日	同 加藤美輝



竹ヶ鼻別院  
竹ヶ鼻織物前途  
琉球絨、染色及品質改良ノ急務  
二〇〇  
六月二十六日  
同人  
同人  
茂人

第五章 雜件

職員出張調

職別	管内		管外		合計
	回数	日數	回数	日數	
場長	一九	一九	四	一三	二三
技師	九	九	二	六	一一
技手	八七	八七	四	一四	九一
主事	一〇	一〇	二	四	一二
計	一二五	一二五	一二	三七	一三七
普通文書件數	二七二	二〇一	四	四	二七五
事務件數	二〇一	二〇一	四	四	二〇五

印刷物及標本配付

種別	總計	部數
大正十一年度試驗豫想事項及其方法	三、二三〇	二〇〇
自一月大正十年、大正十一年ノ織物生産高比較	二〇〇	二〇〇
大正十年度業務報告	三〇〇	三〇〇
岐阜縣工業試驗場諸規程一覽	三〇〇	三〇〇
廣幅織物ノ獎勵	二、〇〇〇	二〇〇
春物流行豫想見本	三〇〇	三〇〇
夏物流行豫想	二〇〇	二〇〇

參觀者調

期	官公吏	實業家	其他	計
自大正十一年四月至大正十二年三月	七五	一、〇七〇	二五〇	一、三九五

織物統計調

年次 產額  
三 四、〇五九、五三六円  
大正三年ニ比シ各年增加額



年次	力織機臺數	大正三年ニ比シ各年增加數
四	四、七五〇、二〇七	六九〇、六七一
五	七、四一九、九八五	三、三六〇、四四九
六	一〇、三一五、七五八	六、二五六、二二二
七	一七、一六八、〇三〇	一三、一〇八、四九四
八	三二、三五九、五一二	二八、二九九、九七六
九	三〇、〇九九、九四三	二六、〇四〇、四〇七
一〇	三六、七八六、七六九	三二、七二七、二二三
一	三八、四七五、三六八	三四、四一五、八三二
三	一、二〇二	七四九
四	一、三七五	九二二
五	一、一〇六	六五三
六	二、二四九	一、七九六
七	二、八七五	二、四二二
八	三、五七一	三、一一八
九	四、五九四	四、一四一
一〇	五、二二六	四、七七三

大正十二年十月二十日印刷  
 大正十二年十月廿八日發行  
 (非賣品)

### 岐阜縣工業試驗場

印刷人 岐阜市松屋町三十九番地 下條善七  
 印刷所 岐阜市松屋町三十九番地 大正社



42  
450



終